

平成25年度第2回野菜需給協議会の概要

独立行政法人農畜産業振興機構

昨日、生産者、流通業者、消費者等野菜の関係者が一堂に会する平成25年度第2回野菜需給協議会が開催され（11月12日（木）13：30～15：30、（独）農畜産業振興機構会議室）、「平成25年産秋冬野菜の需給・価格の見通し」等を確認しました。概要是下記のとおりです。

記

1 平成25年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて

- 野菜需給・価格情報委員会（平成25年11月6日開催）において、とりまとめられた「平成25年産秋冬野菜の需給・価格の見通し」について説明があり、質疑が行われた（具体的には別紙参照）。

【ポイント】

- **冬キャベツ**は、台風の影響による冠水等で出荷量が減少するため、11月の価格は前年を上回る見込み。12月から2月は前年並みとなり、3月は安値であった前年を上回る見込み。
- **秋冬だいこん**は、台風の影響が少なかったことから、概ね順調な出荷となり11月の価格は安値であった前年を上回り、12月及び1月は高値であった前年を下回り、2月は前年並みとなり、3月は安値であった前年を上回る見込み。
- **たまねぎ**は、北海道産が小玉傾向であり、出荷量が減少するため、価格は期間を通じて、安値であった前年を上回る見込み。
- **冬にんじん**は、台風による冠水の影響等から正品率の低下もあり、期間を通じて入荷量が減少するため、11月の価格は安値であった前年を上回り、12月以降は平年より高値であった前年並みの見込み。
- **秋冬はくさい**は、台風による冠水や風害の影響から、小玉傾向や病害等の発生により出荷量が減少するため、11月の価格は前年を上回り、12月から2月は高値であった前年並みの見込み。3月は産地が切り替わり、順調な出荷となるため、安値であった前年並みの見込み。
- **冬レタス**は、茨城産が小玉傾向であり、出荷量が減少するため、11月の価格は高値であった前年並みとなり、12月及び1月は産地が切り替わり、生育が順調であったため、高値であった前年を下回り、2月は前年並みとなり、3月は安値であった前年を上回る見込み。

- 会員から以下のような発言があった。
 - 加工・業務用野菜について、輸入野菜が増加している中で、国産野菜の需要増加のためにも、実需者のニーズにあった生産体制の取り組みの更なる措置が必要。
 - 一般家庭においても冷凍野菜の需要が増加しているが、冷凍野菜については輸入物が多い中、国産野菜を原料とした冷凍野菜を購入したいと考えており、その実態の調査を要望。
 - 高齢者の増加に伴い、従来の野菜の規格には大きく、重たいものもあるため、高齢化社会に対応した規格（ミニ野菜を含む）の野菜生産の取り組みが更に必要。
 - 野菜の機能性成分や冷凍保存方法などについての情報提供が重要。

2 野菜の消費拡大活動等について

- 協議会の取組みとして、「野菜の日」（8月31日）の前日の8月30日（金）に開催した「野菜シンポジウム」の概要について報告があった。
- 全国地域婦人団体連絡協議会、青果物健康推進協会、全国農業協同組合連合会及び農林水産省より、野菜の消費拡大の取り組みについて説明があった。
- 全国農業協同組合連合会より、平成25年12月3日に新たに設立される「株式会社グリーンメッセージ」の設立趣旨等の概要について説明があった。

【参考】 配布資料等については、ホームページで公表いたします。

○平成25年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて

冬キャベツ(11~3月)

主産地の動向等

(主な産地:千葉、神奈川、愛知)

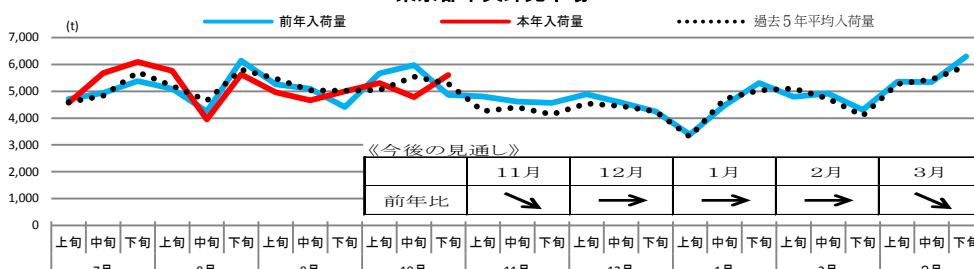
1 作付面積は、千葉及び愛知は前年比100%、神奈川は同102%。

生育状況は、千葉は概ね平年並み。台風26号の被害は、一部冠水した圃場が散見されたが、全体出荷量への影響は少ない見通し。神奈川は、台風26号の被害は一部みられたが、生育は概ね平年並み。愛知は、台風18号、26号の被害が渥美・豊橋地区でみられた。定植直後の苗が強風で飛ばされたり根切りを起こした。出荷開始は、千葉は10月上旬、神奈川は11月上旬、愛知は10月下旬。

2 この先1か月の気象予報(東日本太平洋側)は、平均気温は平年並みか高く、降水量はほぼ平年並み、日照時間はほぼ平年並みの見込み。

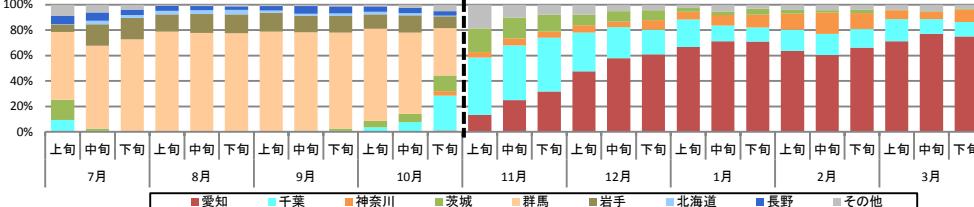
入荷量の推移等

東京都中央卸売市場



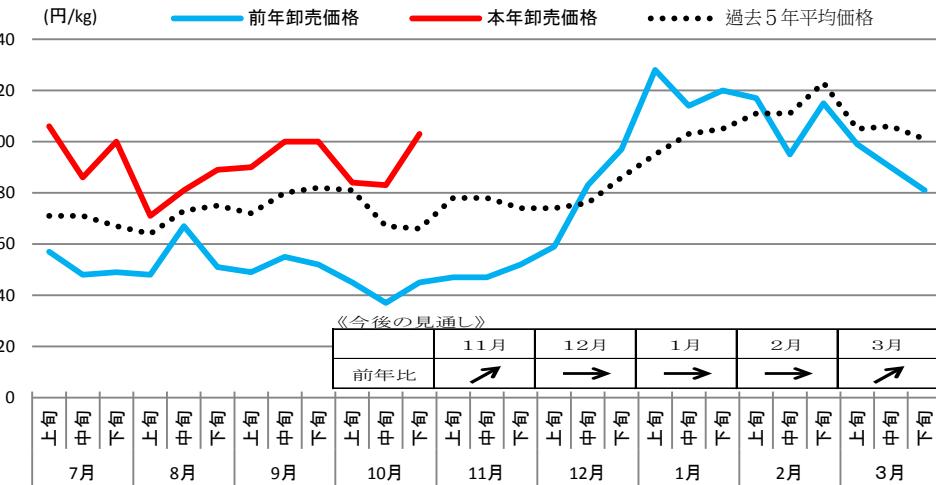
本年の产地別入荷比率

(参考)前年の产地別入荷比率



価格の推移等

東京都中央卸売市場



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、千葉及び愛知は前年並み、神奈川は来年3月出荷分の作付を推進しているため、前年よりやや増加する見込み。

生育状況は、台風26号等の影響で一部みられたが、概ね平年並み。愛知は台風により一部の地区で定植直後の苗が強風の影響で根切りがみられた。

出荷量は、11月は好天により大玉傾向で出荷が多かった前年を下回り、12月から2月は前年並みとなり、3月は遅れていた出荷分と通常の出荷分が重なり出荷量が多かった前年を下回る見込み。

2 需要・価格見通し

価格は、台風の影響による冠水等で出荷量が減少するため、11月は安値であった前年を上回り、12月から2月は前年並みとなり、3月は安値であった前年を上回る見込み。

加工・業務用においては、九州の主要産地で病害等の発生により出荷が少ないことが一部でみられることから、今後は卸売市場からの調達の動きなども想定され、卸売市場の価格にも影響する可能性がある。また、近年、年明けの価格が高値となっているため、すでに中国産を確保する事業者もみられる。

秋冬だいこん (10~3月)

主産地の動向等

(主な産地:千葉、神奈川、徳島)

1 作付面積は、千葉及び神奈川並びに徳島はいずれも前年比100%。

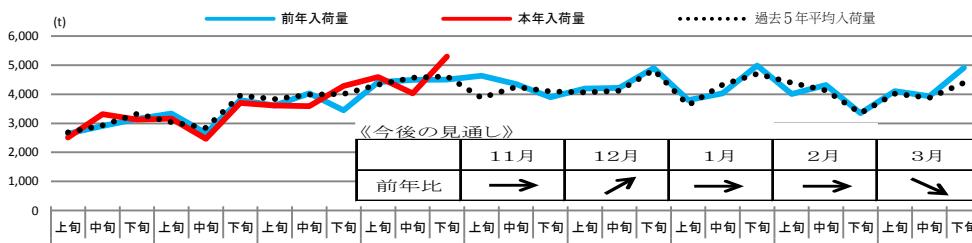
生育状況は、千葉は、夏場の高温・干ばつにより播種が遅れたが、その後の降雨により生育は概ね順調。神奈川は、9月以降の台風により、一部圃場で塩害・葉折れ等の被害が出ているが、全体としては生育への影響は少ない。徳島は、9月上旬より播種が開始され、生育は概ね良好であり、前年並みの肥大を見込む。全体的には、年明け出荷分の比率がやや増加の見込み。

出荷開始は、千葉は10月中旬、神奈川及び徳島は11月上旬。

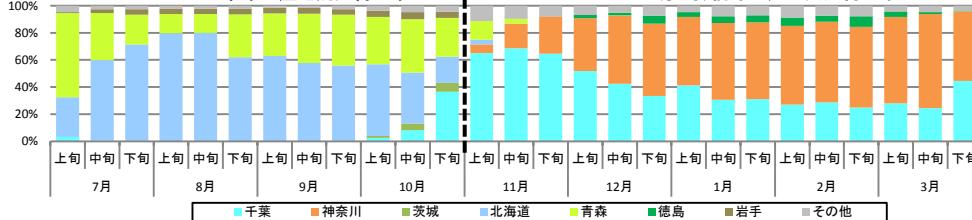
2 この先1か月の気象予報(東日本太平洋側)は、平均気温は平年並みか高く、降水量はほぼ平年並み、日照時間はほぼ平年並みの見込み。

入荷量の推移等

東京都中央卸売市場

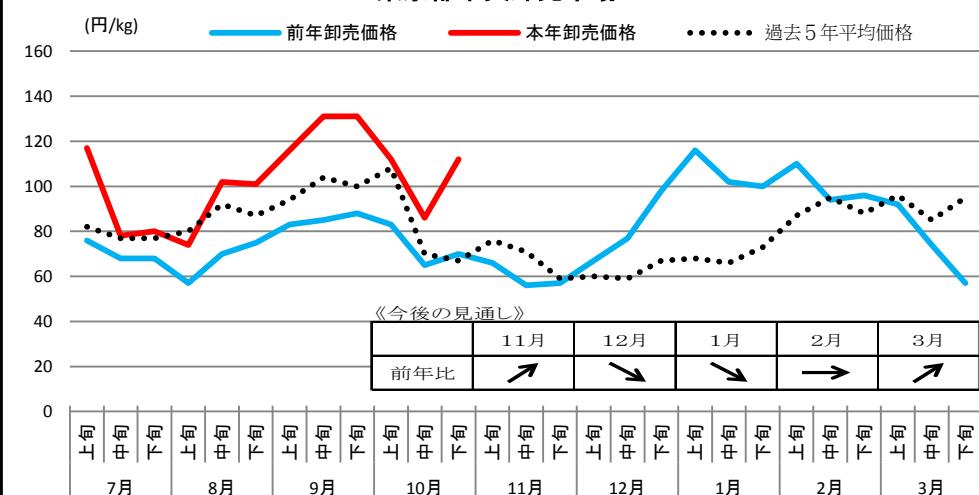


本年の産地別入荷比率



価格の推移等

東京都中央卸売市場



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、千葉、神奈川及び徳島は、前年並みの見込み。

生育状況は、千葉は、台風26号の影響により、特に年始以降の露地物の出荷量が減少する見込み。神奈川は、概ね平年並み。徳島は、概ね順調な生育・出荷となる見込み。

出荷量は、11月は前年並みとなり、12月は前年を上回り、1月及び2月は前年並みとなり、3月は前年を下回る見込み。

2 需要・価格見通し

価格は、台風の影響が少なく、11月は前年並みの出荷量となるものの、安値であった前年を上回る見込み。年末年始は、前年の12月及び1月が高かったことから、前年を下回り、3月は生育が回復し出荷量が多く、安値であった前年を上回る見込み。

たまねぎ（11～4月）

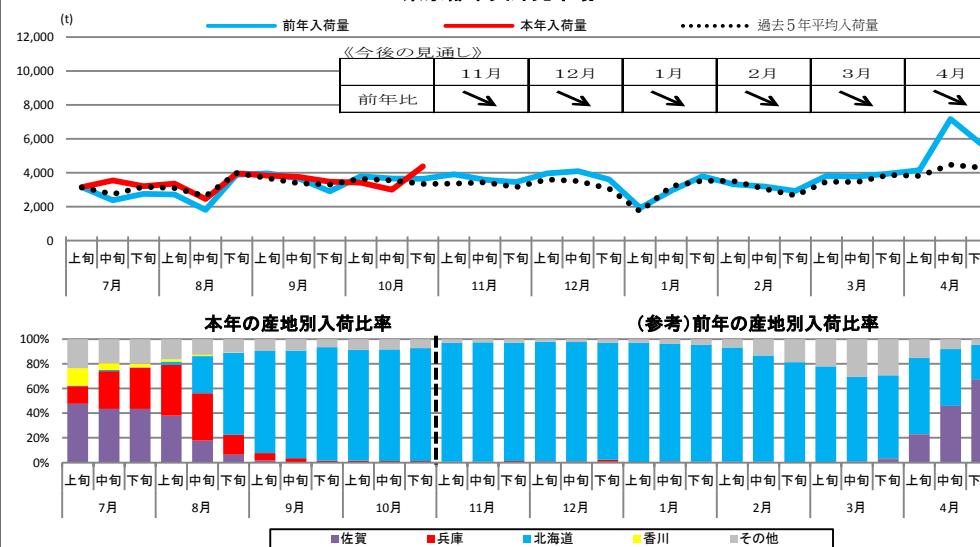
主産地の動向等

(主な産地: 北海道)

- 1 作付面積は、北海道は前年比101%（ただし、24年産は雹害で約140ha廃耕しており、作付面積としては横ばい）。生育状況は、定植は、融雪遅れ・降雨・低温により、1から2週間程度遅れた。収穫作業は9月末で概ね終了し、貯蔵用のたまねぎの倉入れは10月下旬から11月中旬に行われる予定。作付生産概況（10月1日現在）は、作型別反収平均の見込みは4,480kg（前年比81%）。全体に小玉傾向であるが、作型毎のサイズの比率をみると早生のL大比率が高い。L玉比率の高い作型順は、早生>中晩生>極早生。出荷開始は、極早生は8月、早生は8月下旬、中晩生は11月。
- 2 この先1か月の気象予報（北日本太平洋側）は、平均気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みの見込み。

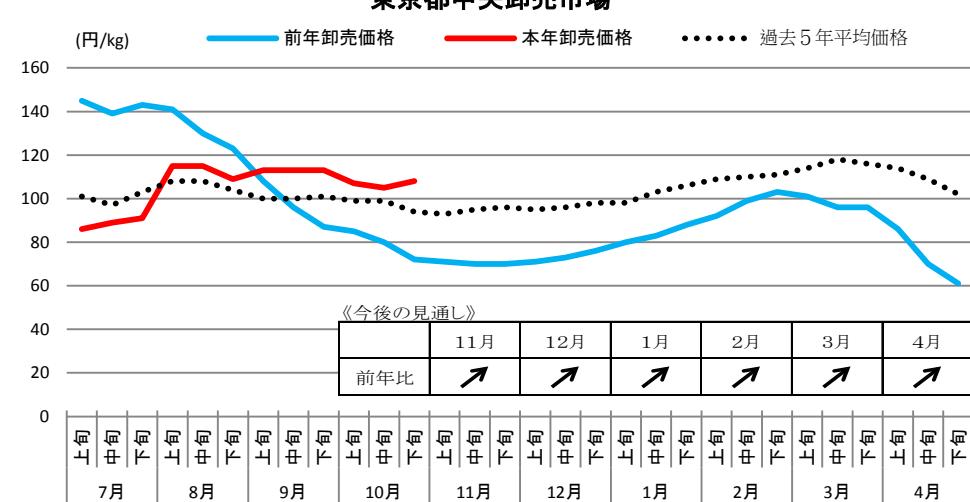
入荷量の推移等

東京都中央卸売市場



価格の推移等

東京都中央卸売市場



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、前年並みの見込み。

生育状況は、今後の供給の主力である北海道産が、融雪遅れと降雨等による定植の遅れ、肥大期の高温と干ばつ、生育期間の短縮により作柄が悪く、小玉傾向となつた。9月末に収穫作業が終了し、今後は貯蔵物の出荷となる。

出荷量は、11月から4月までの期間を通じ前年を下回る見込み。

2 需要・価格見通し

加工・業務用においては、国内産の作柄が悪く小玉傾向であるため、中国や米国からの輸入が増加する見込み。

価格は、北海道産が小玉傾向であり、出荷量が減少するため、安値であった前年を上回る見込み。

冬にんじん（11～3月）

主産地の動向等

(主な産地:千葉、愛知、長崎)

1 作付面積は、千葉は前年比100%、愛知は同98%、長崎は同103%。

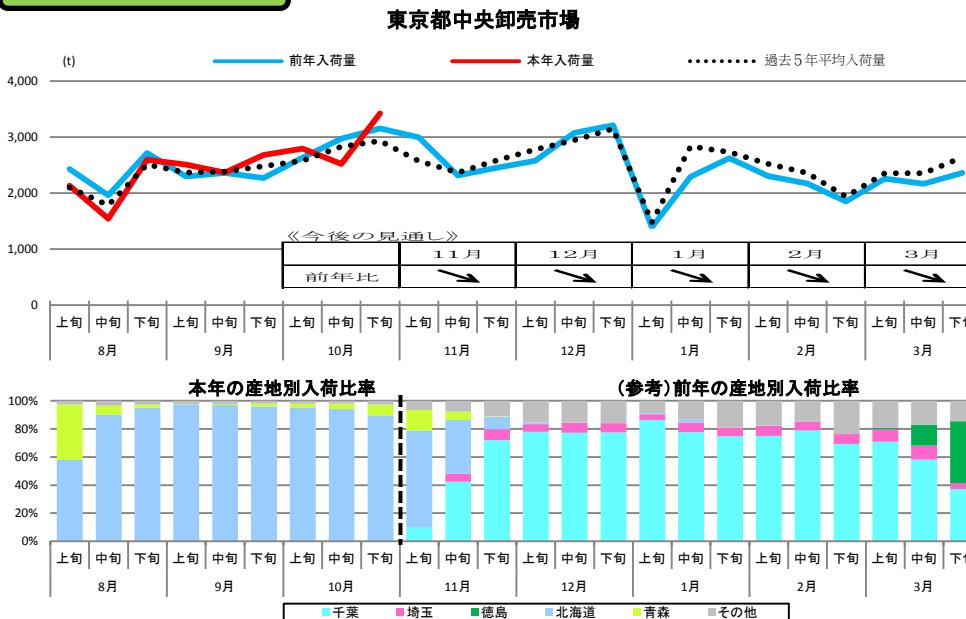
生育状況は、千葉は、8月のゲリラ豪雨で一部地域で発芽不良が散見され、再度の播種が行われたが、その後の雨量が少なかったため、生育にやや遅れがみられる。

愛知は、指定産地のある西三河、海部地区は、台風18号・26号の影響はほぼみられず、生育は順調。長崎は、8月上旬より播種が開始されたものの、8月下旬の降雨で播種できない地区があり、播種時期が2分化。9月以降の干ばつによりやや生育遅れがみられる。

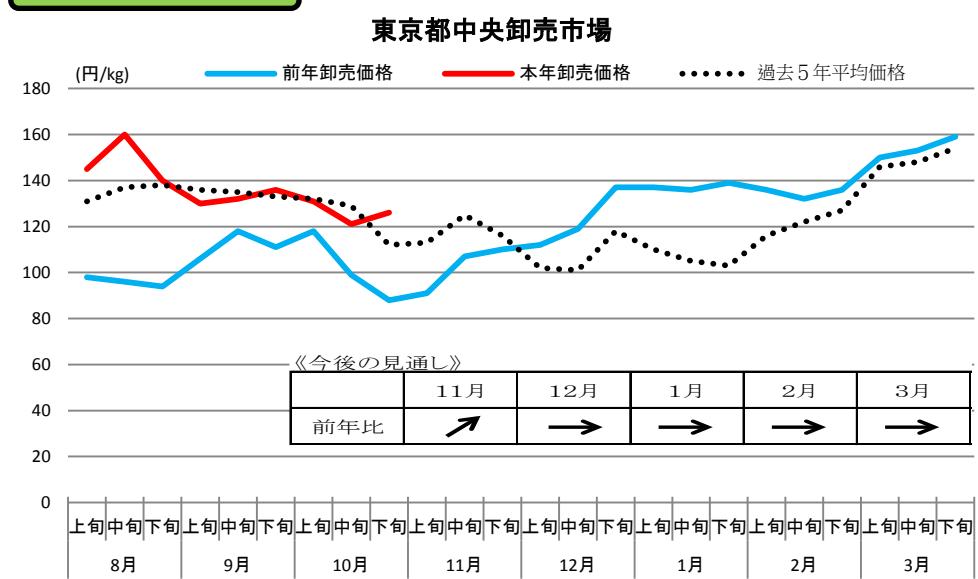
出荷開始は、千葉は10月下旬、愛知は11月中旬、長崎は11月上旬。

2 この先1か月の気象予報(東日本太平洋側)は、平均気温は平年並みか高く、降水量はほぼ平年並み、日照時間はほぼ平年並みの見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、千葉は前年並み、愛知は前年をわずかに下回り、長崎は前年をやや上回る見込み。

生育状況は、千葉及び長崎は、播種後の少雨、干ばつ等の影響があり、やや遅れが見られ、愛知は、順調な生育となる見込み。

出荷量は、台風の影響から主産地の正品率が低いこともあり、11月から3月までの期間を通じ前年を下回る見込み。

2 需要・価格見通し

外食事業者からの需要が少ない中で、中国産の品質、規格が良いことから輸入品に一定の需要があり、国内の価格への影響は少ないことが見込まれる。

価格は、生育の遅れ、台風による冠水の影響等があり、出荷量が減少するため、11月は安値であった前年を上回り、12月以降は、平年より高かった前年並みとなる見込み。

秋冬はくさい（10～3月）

主産地の動向等

（主な産地：茨城、愛知、兵庫）

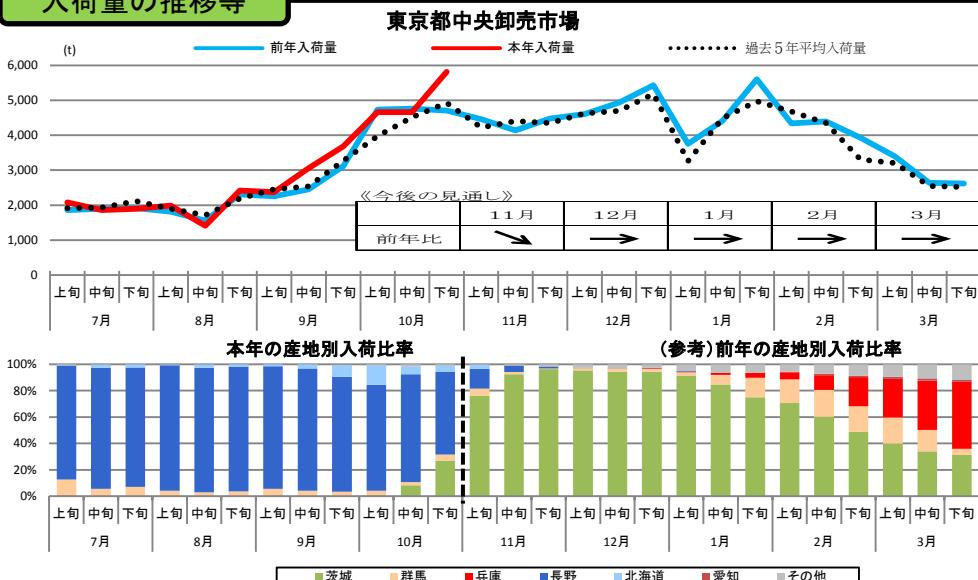
1 作付面積は、茨城及び兵庫は前年比100%、愛知は同97%。

生育状況は、茨城は、台風26号の影響により冠水や風害が見られ、生育は遅れ気味となっている。また、病気の発生も散見される。愛知は、台風18号の被害は東三河地域の一部で出ており、名古屋近郊産地では台風26号による根傷み等の被害が出ている。兵庫は、定植は順調に進み、10月10日頃終了し、台風の被害が心配されたが、被害はない。

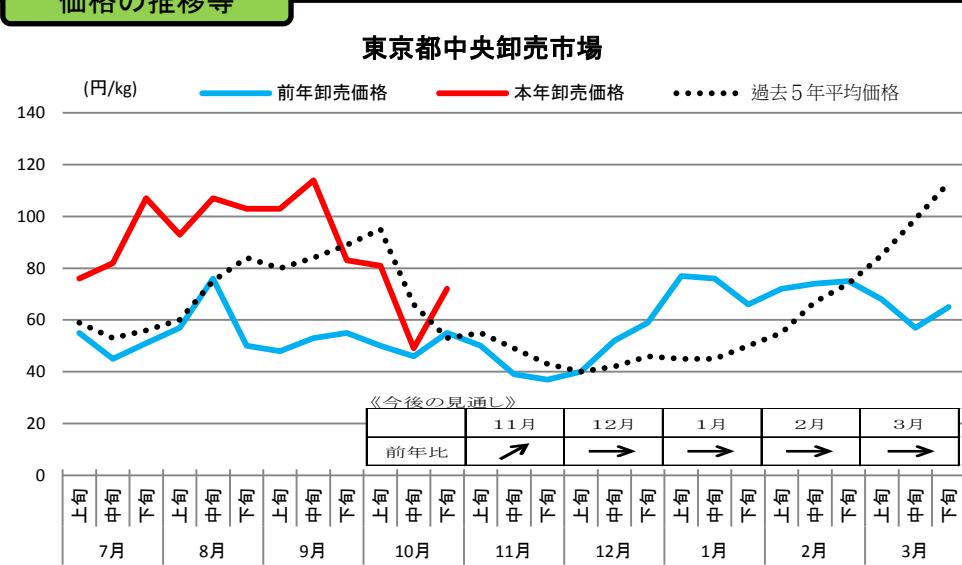
出荷開始は、茨城は10月中旬、愛知は11月上旬、兵庫は12月上旬。

2 この先1か月の気象予報（東日本太平洋側）は、平均気温は平年並みか高く、降水量はほぼ平年並み、日照時間はほぼ平年並みの見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、茨城及び兵庫は前年並み、愛知は前年をやや下回る見込み。

生育状況は、茨城及び愛知は、台風の影響に伴う冠水等により生育の遅れや病害、根傷みが発生している。兵庫は、定植が順調であった。

出荷量は、11月は台風の影響もあり前年を下回り、12月から3月までは前年並みとなる見込み。

2 需要・価格見通し

漬物においては、2012年夏の白菜浅漬による腸管出血性大腸菌O157の食中毒等により減少していた需要が回復傾向となっている。

価格は、11月は生育の遅れによる小玉傾向や病害等の発生により出荷量が減少するため、安値であった前年を上回り、12月から2月は高値であった前年並みとなり、3月は兵庫の生育が順調と見込まれるため、前年並みとなる見込み。

冬レタス（11～3月）

主産地の動向等

(主な産地:茨城、静岡、兵庫、香川)

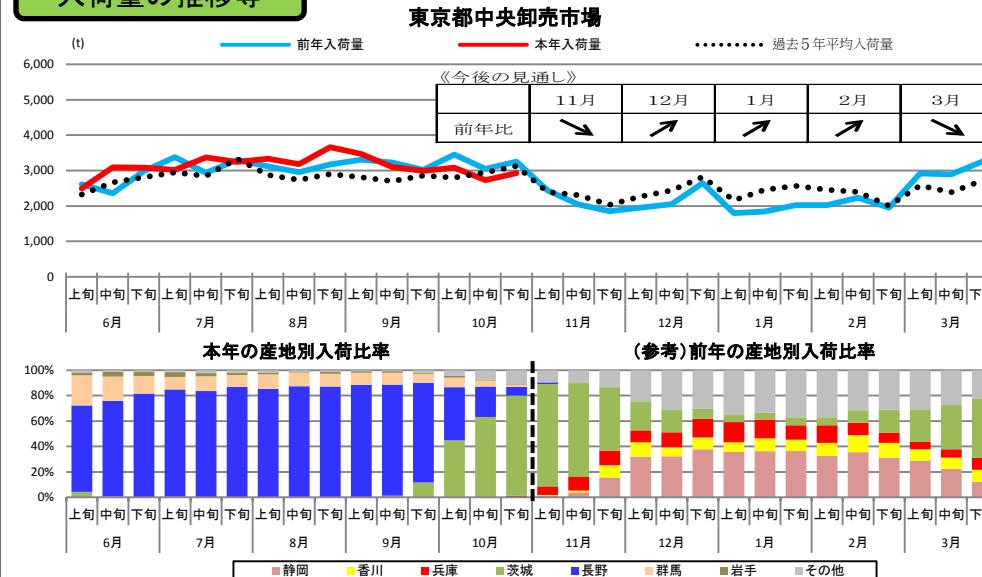
- 1 作付面積は、茨城は前年比99%、静岡及び香川は同100%、兵庫は同98%。

生育状況は、茨城は、台風26号による外葉の折れ・傷み等により、下位等級の発生比率が高く小玉傾向。10月最終週より品質は改善される見込み。静岡は、育苗期は順調な生育。今後は寒波等が襲来した場合の生育への影響も懸念される。兵庫は、年内出荷分は順調な生育となっているが、年明け出荷分は降雨の影響で定植時期がやや遅れている。香川は、出荷初期の露地物は台風18号と降雨により定植が遅れ、その後の1月出荷分のトンネル物は台風26・27号等により定植が遅れている。

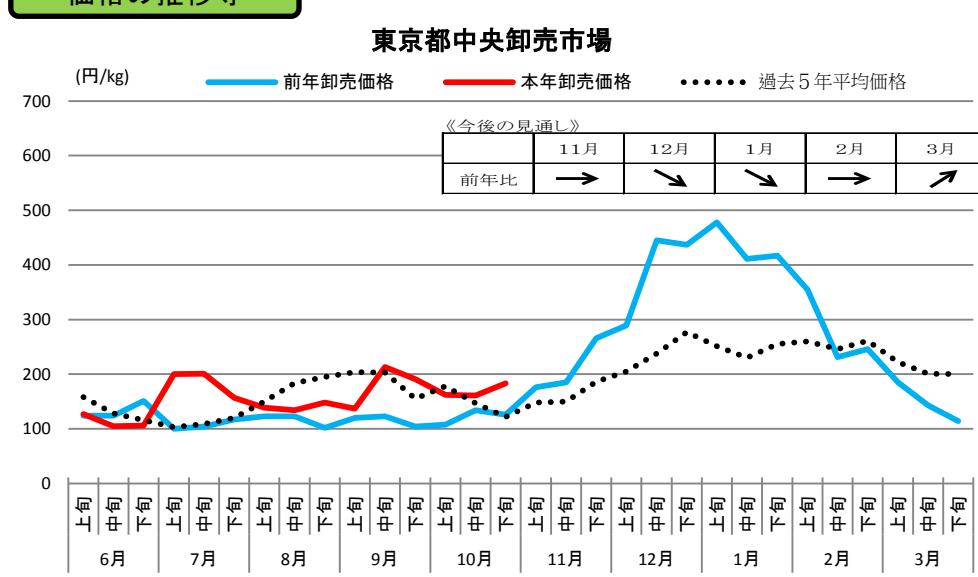
出荷開始は、茨城は9月下旬、静岡は10月下旬、兵庫及び香川は10月中旬。

- 2 この先1か月の気象予報(東日本太平洋側)は、平均気温は平年並みか高く、降水量はほぼ平年並み、日照時間はほぼ平年並みの見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、茨城及び兵庫は前年をやや下回り、静岡及び香川は前年並みの見込み。

生育状況は、茨城は、台風の影響に伴う外葉の痛み等により小玉傾向となっているが、今後は品質が改善されていく見込み。静岡は順調な生育となっている。

兵庫は年内出荷分は順調な生育となっているが、年明け出荷分は、降雨の影響により定植がやや遅れている。香川は台風、降雨により、定植が遅れている。

出荷量は、11月は台風の影響から前年を下回り、12月から2月は低温で出荷が少なかった前年を上回り、3月は茨城産が生育良好で出荷が多かった前年を下回る見込み。

2 需要・価格見通し

加工・業務用においては、茨城が小玉傾向等となっており、通常の歩留まりが確保できないため、台湾からの輸入物への需要が強くなっている。

また、外食においては結球レタスから非結球レタスのサニーレタスやグリーンレタスへの需要の変化が一部みられる。

価格は、11月は主産地である茨城で小玉傾向等となり出荷量が少ないため、高値であった前年並みとなり、12月及び1月は主産地である静岡等の生育が順調であるため、高騰した前年を下回り、3月は安値であった前年を上回る見込み。

その他、秋冬野菜全体の消費の動向等

① 冬場の消費を左右する要因、注目している要因

- おでん関連商材と組み合わせた販売を計画している。
- はくさいの漬物の需要期となるため、小売店では積極的に販売していく。
- 今年の冬場の消費には関係はないが、来年の消費税増税を注視しており、売価設定、販売ロット等について現在精査している。
- 冬場のキャベツが不作になると、輸入等による手当も出来にくいため、国内産地（九州・四国）を育成することが重要である。

② 主要6品目以外の野菜で、販売戦略として特に注目している品目の動向

- このまま相場が高い状態が続くことが考えられるので、年末に向けて海外産地からの仕入ルートを開拓している。
- 年間を通じて売れる品目であるトマト、きゅうり及びレタスについては、高品質のものや付加価値（きゅうりの花付き、レタスの水耕栽培等）の高いものを販売していく。
- ブロッコリーの脇芽は、包丁で切る必要がなくて手間がかからない。袋に詰め放題で販売すると非常によく売れる。

③ 冷凍野菜やカット野菜の動向

- カット野菜については引き続き、前年比2桁の伸びを示しており、今後、炒め物、鍋物のカット野菜の品揃えを強化していく。
- カット野菜については、夏野菜から根菜中心の温野菜セットの販売となり、価格帯は1パック500円程度を想定している。
- カット野菜の需要が伸びているため、生産者団体と提携して開発したミックス野菜等のPB商品の販売を予定している。
- 海外産の冷凍野菜については、消費者から安全性について懸念する声もある。
- 冷凍野菜は、輸入品が多い中で、品質及び安全性の高い冷凍野菜を製造する国内の冷凍野菜産業を育成することが重要である。

④ 輸入野菜（生鮮野菜及び冷凍野菜）の動向

- 相場が高騰している野菜については、国産の代替えとして価格を抑えた輸入野菜の引きが強まっている。
- 米国産たまねぎの生育は悪くない模様であるが、価格は前年に比べ高い価格で取引されている。
- 中国産のたまねぎは、人件費等の高騰から販売価格が引き続き高くなることが予想されるので、米国産の取扱が多くなると考えられる。
- 円安は、ドル建てでの取引が一般的となるたまねぎ、レタスにおいて影響が大きいと考えられる。